

# 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連  
 有 地域花いっぱい運動補助金の見直し、1団体30万円から10万円に減額する。  
 無

## 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	緑化補助制度の充実事業							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	都市施設係	評価票作成者	公園緑地担当係長 朝岡正志
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	緑化	コード	1 2 3
	項				単位施策(中)	緑化補助制度の充実	コード	1 2 3 2
		水と緑の環境づくり			単位施策(小)	緑化補助制度の充実	コード	1 2 3 2 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	補助団体		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	花いっぱい運動、種苗生産事業の補助により地域を花で飾り、都市景観の向上を図る。			
1-5 事務事業の内容	地域を花で飾り、都市景観の向上を図る花いっぱい運動、種苗生産事業を実施する行政区に対し支援を行う。							

## 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	地域の花いっぱい運動、種苗生産事業を支援するため、毎年可能な限り補助金を支出。また支出方法としては前渡。	緑化の推進は、都市の温暖化を防ぐ重要な役割を担っており、今後もその重要度は増すことが予想される。	生活の中における緑がやすらぎやうるおいを与えてくれるだけでなく、都市の温暖化を防ぐ有効な手段として考えられている点でも市民ニーズは非常に高いと思われる。		
平成19年度	広く浅くを目指した地域花いっぱい運動への参加を各区に呼びかけ積極的な参加を促した。	補助金削減に伴い事業を撤退希望する区がある。	"			
平成20年度	"	補助金削減による花いっぱい運動の区域が減少している。	区全体に花いっぱい運動を展開したいが、資金に限りがあり計画通り進まない。			
平成21年度						
平成22年度						
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(件)	指標の説明
	花いっぱい運動等補助件数(件)		10(件)	13(件)	花いっぱい運動推進地区を増やしていくことで、市全体の緑化推進を図る。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	活動実績 a(単位)	8(件)	9(件)	9(件)								
	直接事業費 b(千円)	1,060	1,160	1,160								
	人件費 c(千円)	804	801	397								
	合計コスト d(b+c)(千円)	1,864	1,961	1,557								
単位コスト d/a(千円)	1件当たり233	1件当たり218	1件当たり173	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費は、各行政区への補助金の合計。人件費は係総事業費(3人分)の4割の内5%

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(件)	8	9	9							
	後期目標値に対する達成度(%)	61.5	69.2	69.2							

### 3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	単年度担当課評価	A	A	A							

4段階評価結果  
 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する  
 B : 事務事業の実手法や環境(予算的・人的)に改善が必要  
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要  
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準  
 必要性(必要な事務事業であるか)  
 公共性(公が実施する意味があるか)  
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)  
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)  
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)  
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	緑化の推進は都市の温暖化を防ぐためにも非常に重要であり、単発ではなく継続した事業の実施が必要であると認識している。		より多くの行政区で花いっぱい運動等を実施していただくよう努めていく。
平成19年度	"		市全域で花いっぱい運動が展開されるようPRに努める。	毎年同一箇所の花壇、プランター等の花植えを場所を替え市全体で花いっぱい運動を展開して行きたい。
平成20年度	花いっぱい運動に参加している市民が高齢化により人材の確保が困難になっている。		未実施の区に対して積極的に参加を促す。	購入した花苗を使用するだけでなく、種から育てる取組も広がりつつあり、今後に期待が持てる。
平成21年度				
平成22年度				
平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

### 4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			